「跡」第36集の発刊によせて

仙台市小学校教育研究会理科部会
会　長　　日　下　　孝

今年度の仙台市小学校教育研究会理科部会は，東日本大震災のために，今までにない活動になりました。このたびの東日本大震災において被災された方々に，心よりお見舞いを申し上げますとともに，一日も早い復旧と復興をお祈りいたします。

私たち日本人は，この災害の多い日本列島において古代より生活を営んできました。だからこそ，そこから知識と技術を持った日本が形成されてきたのではないでしょうか。今こそ，自然を知り，尊び，学ぶこと。そのような自然と科学をしっかりと判断できる子供たちの育てていく必要があると，改めて理科教育の重要性を考えさせられた年でした。

さて，今年度は，新しい学習指導要領が全面実施になり，教科書も新しくなりました。全ての教科等で「言語活動の重視」が言われ，理科では内容の充実とともに，科学的に探究する能力の育成を目指していることが特徴としてあげられます。

また，「実感を伴った理解」が今回の改訂の特色になっています。つまり，教師が一方的に教え込む授業のスタイルではなく，児童の実態を踏まえ，じっくりと体験させ，その中で児童の中に生まれた考えを表現させることで，次への学習を設定していくことが求められています。このことについては，10 月に行われた教育課程研究協議会において，3 年生から 6 年生に授業実践を行った枡江小学校の豊川先生が発表しました。

さて，「跡」第 36 集に先生方から貴重な原稿をいただき，授業を通しての様々な提言や実践記録をご紹介いただきました。お忙しい中，事前検討会を開くなどして，各学年部の研究授業の指導案や記録などの原稿をお寄せいただきました諸先生方はもちろん，「跡」の編集委員の皆様に，感謝申し上げます。

今年度の理科部会では研究主題を「科学する楽しさを体感し，見通しをもって追究する子どもの育成」として，理科部員の先生方を中心に日々の実践授業を通してテーマに迫っていただきました。

11 月と 2 月に開催された授業研究においては，お忙しい中，会員の方々がお互いに日程を調整し，それぞれの学年部会で指導案検討会を開いていただきました。2 月の授業研究会では，たくさんの先生方が 4 つの会場に集まりました。各会場校では，授業検討会にも大勢の先生方が参加し，児童の反応や指導の効果について具体例をもとにした話合いにより，参加者の方々がお互いに勉強になったという感想が聞かれました。

おかげさまで今年度も大きな成果を上げることができ，その取組についての記録を「跡」にまとめていただきました。また，指導案は理科研究会の Web ページにも掲載しましたのでご覧ください。（http://www.sendai-c.ed.jp/~shorika/）

最後になりましたが，理科部会の活動を支えていただきました会員の皆様に感謝申し上げ，あいさつといたします。